

記録
16ミリ
カラー／31分

■企画
国際協力事業団

スタッフ

■製作
利光久輝

■脚本

花崎 哲

■演出

花崎 哲

原村政樹

山田和広

伊藤一夫

■撮影

江連高元

村山和雄

大野 洋

■照明

本橋俊男

藤来義門

橋本 登

■編集

吉田栄子

加納宗子

■選曲

山崎 宏

■録音

伊藤 亨

■解説

牟田悌三

文部省選定 第28回日本産業映画・ビデオコンクール奨励賞

この映画は、アジア各国からの5人の青年男女が、それぞれ3日間ホームステイした5つの家庭の経験を描いたものである。ホームステイ受け入れにあたっての注意と、文化や生活習慣の異なる人間同士のふれあいを通して、真の国際理解について考えていく。



日本でのホームステイの日が近づくと「これから3日間を過ごす家はどんな家だろう？ どんな人たちなのだろう？」来日した青年たちは、一様に緊張と不安で心細い思いをしている。

タイで果樹園を営むプラモートさん（21歳）は、熊本県阿蘇で高地農業を営む高橋さんの家を訪れた。家族揃って出迎えてくれ、丁寧に家の中を案内されたりするうちに、その緊張もほぐれていく。日本人は排他的ではないかと思っていたプラモートさんだが、高橋家人々の優しさに触れるうちにその印象が変わったという。

インドネシアの大学で助手をするガディさん（26歳）を迎えたのは、群馬県藤岡市の丸山さんである。英会話のサークル活動をしている奥さんはパーティを催して、仲間と英語の紙芝居をして見せたり、また、ガディさんからイスラムのお祈りを説明してもらったりして、習慣や信仰の違う者同士が次第に理解し合っていく。

タイの農村から来たヴァサイさん（25歳）は、熊本県の河津さんの牧場に滞在した。小柄で明るい彼女は、言葉が通じなくても身振り手振りですぐに子供たちやお婆ちゃんと仲良くなった。短い時間ではあったが心が通い合い、ヴァサイさんもお婆ちゃんを本当の家族のように感じたという。フィリピンの経済開発公団で働くエドガーさん（29歳）や、同じく外務省で働くキャロルさん（24歳）も参加して、それぞれが、受け入れる家庭の人々との温かい心のふれあいを体験して3日間のホームステイを終えた。